

1. 評価結果概要表

作成日

平成 21 年 5 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	4091100042		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム 大池		
所在地	福岡県福岡市南区寺塚2-8-10 〒815-0074 (電話) 092-511-2300		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年5月1日	評定確定日	平成21年6月2日

【情報提供票より】(平成 21 年 4 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 19 年 7 月 1 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	15 人	常勤	11 人	非常勤 3 人 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての ~ 2・3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日あたり		1,300 円程度	

(4) 利用者の概要(4 月 10 日現在)

登録人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	73 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	在宅医療 医療法人HCU・たけとみクリニック、医療法人博愛会病院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に立地し、利用者の生きてきた人生をできる限り尊重し、地域で利用者の望むこと、必要とされている気持ちを大切に家族のように支え合い、常に寄り添ったケアを大切に支援しているホームである。ホームの代表者・管理者をはじめ、全職員が「寛ぎの中でゆったり楽しくその人らしく」の理念のもとに、利用者一人ひとりの思いや意向を重視した穏やかでさりげない支援が徹底されている。家族、利用者、職員全体で利用者の望むケアを一貫して行っており、ホームで看取りを支援したこともある。手打ちそばの実演や手品ボランティア、民謡教室、ハーモニカ演奏など、多数の地域ボランティアの方々がホームを訪れ、利用者との交流が図られている。今後ますます、サービスの質の向上と地域の認知症ケア向上の推進役となっていくことが期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、職員へはスタッフ会議時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、グループホーム協議会に加入し、同業者との交流を行うなどの具体的な成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、全職員で評価項目の内容を確認し、日々のケアについて協議するなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 校区社協会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族の参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や看取りの事例について報告が行われ、利用者のかかわり方について地域の方からアドバイスをもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 面会時の声かけや電話連絡、毎月のお便りを通じて、利用者の心身状況、ホームの活動状況や金銭管理の説明を行なっている。毎月お知らせも発行し、担当職員が個別に利用者の状況や行事報告を行うなどの取組みがある。年に2回の家族会を開催し、家族との交流を深めながら要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。家族会時、看取りについて家族から多数の意見をもらうなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 公民館のさくら教室や町内行事への参加、地域ボランティアによる手打ちそばの実演、民謡教室や詩吟、ハーモニカ演奏などへの参加などを通じて、地域との交流の機会を積極的に捉え、地域とのかかわりを意識した取組みがある。日々の散歩時やゴミ出しの際の声かけ、挨拶など、自然な形で地域交流への取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「寛ぎの中でゆったり楽しくその人らしく」のホームの 理念をもとに、地域の中で安心した暮らしの継続とそ の人の生活ができることを目標に日々の業務に 積極的に取り組んでいる。常に地域と利用者とのか かわりを重視しながら家族のように支え合い、寄り 添ったケアの提供に努め、地域ボランティアの方によ る手打ちそばの実演など、地域との交流がみられる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事務所やリビング内に掲示し、自然に目に入る工夫 がある。朝礼時に唱和したり、就業前や業務の合間 に常に理念に立ち戻り、確認している。日々の業務の 中で職員間で理念と照らし合わせて検討したり、月1 回のスタッフ会議を通して、理念に基づいたケアの内 容について協議するなど、理念の実践に向けた取組 みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	公民館のさくら教室や町内行事への参加、地域ボラ ンティアによる手打ちそばの実演、民謡教室や詩吟、 ハーモニカ演奏などへの参加などを通じて、地域との 交流の機会を積極的に捉え、地域とのかかわりを意 識した取組みがある。日々の散歩時やゴミ出しの際 の声かけ、挨拶など、自然な形で地域交流への取 組みがある。		現在、ホームのお便りを地域の方々に配布し、 ホーム行事への参加の呼びかけを積極的に行うこ とを検討されています。地域ボランティアによる手打ち そばの実演や交流への参加に加え、地域住民との 更なる積極的な取組みを期待します。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員へはスタッフ会議時に改善についての協 議を行うなどの取組みがある。この過程で、グルー プホーム協議会に加入し、同業者との交流を行うなど の具体的な成果が見られる。今回の受審にあたり、全 職員で評価項目の内容を確認し、日々のケアについ て協議するなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	校区社協会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族の参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や看取りの事例について報告がなされ、利用者のかかわり方について地域の方からアドバイスをもらうなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加がみられる。運営推進会議を通じた連携やその都度の行政窓口へ赴いての相談、電話連絡など、市町村との連携への取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が、成年後見制度や日常生活自立支援事業の外部研修に参加し、会議にて受講報告会や勉強会を行うなど、職員全体で制度について学ぶ取り組みがある。制度に関する資料を準備し、家族会にて制度の概要や利用手順についての説明を行い、新しく得た情報はその都度家族に説明している。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の声かけや電話連絡、毎月のお便りの発行を通じて、利用者の心身状況、ホームの活動状況や金銭管理の説明を行なっている。毎月お知らせを送付し、担当職員が個別に利用者の状況や行事報告を行うなどの取り組みがある。ホームには公衆電話も設置しており、利用者は自由に家族や知人と連絡をとっている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を開催し、家族との交流を深めながら要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。家族会時、看取りについて家族から多数の意見をもらうなどの取り組みがある。面会時の何気ない言葉や些細な態度から、家族の思いや意向の把握に努めている。出された意見は、職員間で話し合いケアに活かすなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい環境を整え離職を抑えるように工夫し、日頃からユニット間の交流を深め、利用者との馴染みの関係が保たれる様な体制を整えている。職員の異動については最小限にとどめ、やむを得ず異動を行う際は、引継ぎ期間を設け、管理者や馴染みの職員が見守りながら指導にあたるなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別などによる制限はない。職員一人ひとりの特技を生かし、園芸が得意な職員にホーム菜園の手入れを行ってもらい、折り紙が得意な職員に折り紙教室を開催してもらうなど、職員がやりがいを持って得意な事を発揮できるような配慮がある。今年度からレク委員会や広報委員会など、各委員会の運営を担当職員に行ってもらい、自主的に活動する工夫がみられる。資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整を行う支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務にて人権尊重や高齢者の尊厳について管理者が指導を行い、身体拘束や人権問題をテーマとした勉強会を開催するなど、職員の人権意識を喚起するような取組みがある。公民館での人権についての勉強会に職員が参加し、受講報告会にて職員間で人権教育・啓発活動について学ぶ取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修への参加を行い、可能な限り参加の機会を確保するなどの支援体制がある。スタッフ会議にて受講報告会や事例検討を行い、知識の共有に努めるなどの取組みがある。外部研修については勤務調整を行い、職員全体のスキルアップを図るなど、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会の研修を通じて、他事業所への見学や情報交換、他事業者との職員間の意見交換や交流が図られ、サービスの質の向上に向けた取組みがある。地域のふれあい会による近隣同業者との交流会や情報交換にも参加し、日々の業務やケアに活かす取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学や他の利用者との交わりなど、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居直後は、状況に応じて家族への面会を願ひし、利用者へは頻繁な声かけを行い、かわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者寄り添い、利用者から励ましを受けたり、生活全般の知恵を教えてもらうなど、人生の大先輩として常に利用者から学ぼうとする取組みがある。利用者が自然と職員へねぎらいや感謝の言葉をかけたり、利用者同士も互いに気遣う様子が見受けられ、お互いを尊重し支えあいながら共に過ごしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時の面談や家族の面会時、家族会などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。日常のかかわりの中で、利用者の動作や表情などから利用者の思いや意向を汲み取り、カンファレンスにて職員全体で協議・検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画担当が職員が汲み取った本人の希望や家族の意向などをまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画の内容は目標に加えて、具体的な対応や支援の手順について明記され、利用者・家族・職員が情報を共有する取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	状況の変化時や家族の希望時、または3ヵ月毎にカ ンファレンスを開催し、内容の評価、検討及び再作成 が行われている。利用者の情報交換や心身状況の変 化について申し送りや朝礼時に確認を行い、全職員 による月に1度のスタッフ会議にて、利用者や家族の 意向の確認が行われ、ケアについての手順や変更内 容についての見直し、再作成が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関による往診 や連携支援、かかりつけ医への受診介助、入院先の 主治医・医療関係者との連携、利用者の希望による 美容室への外出支援など、利用者の状況や家族の 要望に応じて、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医による毎月の往診があり、緊急 時は24時間いつでも対応可能である。かかりつけ医 への受診について家族対応が困難な場合は、ホーム にて支援するなどの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期における対応を説明し、 利用者の意思をふまえた上で、家族などの同意を書 面で得ている。状況の変化に伴い、その都度、家族、 主治医、事業所を交えて協議し、方針を共有していく 取組みがある。ホームにて家族や他の利用者、職員 とともに看取りを行った事例があり、ホーム全体で支 援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、日々のケアやスタッフ会議時に管理者が指導 し、職員の意識の向上を図る取り組みがある。利用者 へタイミングを見計らったさりげない声かけ、視線を 合わせて笑顔で傾聴するなど、利用者の自尊心やプ ライバシーに配慮した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し決して無理強 いせず、様子を見ながら声かけを行っている。利用者 の希望や状況に応じて、食事や入浴のタイミング、食 事のペースなど、利用者一人ひとりのペースを尊重し 支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	料理の盛りつけや配膳、下膳、食器洗いなど、利用 者の出来る範囲でかかわる取り組みがある。利用者 と職員と一緒にテーブルを囲み、何気ない声かけを行 いながら食事を勧めたり、食器を入れ替えるなど、和 やかな雰囲気の中で、ゆったりと食事を楽しめるよ うな取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴が可能であり、入浴の時間は午後2時 頃からが多いが、希望があれば午前中でも対応して いる。入浴の回数や順番など、利用者の状況や希望 に応じて支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	料理の盛り付けや食器洗い、食器拭きなど、利用者 の出来ることや生活歴などを把握し、利用者一人ひと りのペースに合わせた支援を行っている。日々の散 歩や洗濯物たたみ、行きつけの美容室への外出、通 所介護への参加など、日常のかかわりの中で利用者 の楽しみごとや得意なことを把握した上での働きかけ がみられる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	外食や花見、利用者の家族から招待された観劇、コ ンサート鑑賞、野球観戦、山笠見学、日々の散歩、買 い物など、利用者の状況に応じてできるだけ戸外に 出かける支援が行われている。ご家族との個別外出 や公共機関を利用して行きつけの美容室へ外出する など、利用者の希望やその時々状況に合わせた支 援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、自由に入出入りできる。 職員は利用者の様子をきめ細かく観察、見守りなが ら、さりげなく声をかけるなど、利用者の自由な暮らし を支える対応と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の消防署の指導による避難訓練、2ヶ月に 1度の自主訓練を実施し、避難場所や避難経路、消 火器の使い方などの確認が行われている。運営推進 会議や日々のかかわりを通して、近隣住民の訓練へ の参加の呼びかけや近隣への協力を得るための働 きかけを行う取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	昼食は併設の通所介護の厨房にて調理している。 朝食や夕食、土・日曜日などの食事は、利用者のリク エストを献立に反映させるなど、食事を楽しむための 取り組みがある。利用者毎に毎回の食事量の記録など を行い、水分摂取量が少ない利用者へは、頻繁な声 かけを行うなど、栄養摂取や水分確保への支援があ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関前のプランターには、鉢植えや季節の花が 咲き誇り、心和ませる空間を醸し出している。リビング には、野の花や植物がさりげなく生けてあり、季節を 意識した装飾や折り紙の手作りの品々が施され、アッ トホームで居心地良く過ごすための工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、寝具やタンスや、鏡台、テレビ、調度品、 家族の写真などの馴染みの物や使い慣れた物が持 ち込まれており、安心して居心地良く過ごせるための 居室作りの工夫や配慮がみられた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号